

# WORK to WORK



長野県伊那北高等学校

みやざわ しゅんたろう

宮澤 俊太郎さん

もう、ほうっておいてほしい。僕らは居心地がいいのだから。何も困っていないのだから。

テレビ番組で実際のニートの人が言っていた言葉である。その言葉をもって、そのテレビ番組の出演者の中からは国のニート対策は必要ない、との主張が聞かれた。

ニートはほうっておけばいいのです。社会にはニートの存在が必要です。消費者層としても他の意味でも。

これは、他のテレビ番組で有名企業の社長が言っていた言葉である。その言葉をもって、そのテレビ番組にはニートがいても仕方ないという雰囲気が漂っていた。

すべてが安易な方向へと流されようとしている。ニート自身も、そして周りの人々や社会も。ニートやフリーターは、誰にも迷惑をかけていないからいい、親に迷惑をかけるのは仕方ない、と言い、企業側の人間は、働く気がある人だけ働けばよい、ニートやフリーターは消費活動だけしてくれればよい、と言う。当人達は自分勝手な主張を繰り返している。彼らが見ているのは限られた範囲の社会だ。将来をも含めた広い社会を見なければならぬ。それは問題の先送りであって、将来必ずこのツケが回ってくるだろう。

では、そのために実際に何ができるだろうか。現実を憂いていても何も始まらない。今、本当にすべきことについて考えてみたい。

まず、この問題に取り組む姿勢として、実際にニートやフリーターの気持ちになってみる必要があると思う。彼らのモチベーションクライシスをもっと身近

に感じることだ。

私は冬の高校一年生の冬休みに、郵便局でのアルバイトに参加した。アルバイトの目的は、新しい携帯電話を購入するため、すなわちお金のためである。実際にアルバイトをするのは初めてだった。しかし、終わってみて残った感想はただただ辛い二週間だったということである。延々と年賀状を仕分けするというその作業は、肉体的というよりはむしろ、精神的に辛かった。原因は分かっていた。私は郵便事業に興味があったわけでもなく、ただお金のためだけに働いていたからだ。働いたことのなかった私にとって、お金のためだけに働くということがこんなにも辛いということは予想外だった。

ある有名企業の社長が、「みんな結局はお金のために働いているんでしょう」、と言っていたが、それは事実であるが真実ではない。お金のためだけではいくら割り切っても働き続けられない。自分の心がストップをかけてしまう。それこそモチベーションクライシスの始まりだと思う。その先に残された道は、仕事をやめる、新しい仕事につく、また仕事をやめる、という転職の繰り返しである。そんな中で、自分に合った仕事を見つけようとするが、もともと比較的簡単に就職できるアルバイトなどの仕事に働きがいを見出せるものが少ないのも事実である。その中で自分に合った仕事を見つけ出そうなどというのは不可能に近い。

今、若者達は、モチベーションクライシスからもたらされる、このおかしな悪循環から抜け出さなければならぬ。

私は、ここで必要なのは仕事の中に働きがいを見

出す「実体験」だと思う。講演会やセミナーでは不十分だ。私が提案するのは「正社員体験プラン」なるものだ。これはただ単に、職業体験をするのではない。参加者は無報酬で自分の希望した企業で働くことになるのだが、その間社員寮やその企業の社員の自宅で共同生活をする。文字通り正社員の生活そのものを体験するのだ。職務時間ももちろん、職務後のプライベートの過ごし方や同僚とのコミュニケーションなど全てを体験する。またお金のためではなく、働くために働くのだ。そういった体験の中からしか働きがいは見出せないはずだ。

確かにこのプランには企業側のメリットが少なく、国レベルで大規模に行うには現実性が低いかもしれない。しかし、ある大企業の社長は、雇用対策こそ企業としての最大の社会奉仕、としている。今後このような考えを持つ企業が増えていけば、このプランの大規模な実施も可能となるかもしれない。

ただ、このようなプランが実現しても、参加するか否かは最終的には、若者個人の判断に任されることになる。そのために社会全体で職業活動に積極的に向かう雰囲気を高めていくことが大切だと思う。ニートやフリーターとして気楽に暮らすのもいいが、あくせく働くのも悪くない、そんな雰囲気を作っていけるといい。

2010年、私自身は21歳である。私の夢は起業し経営者となり、最終的には世界に向けて文化的支援活動を行うことだ。文化的支援は、今のニート・フリーター対策に似ているところがあると思う。文化的支援活動とは世界に向けて、生きがいを見つけることのすばらしさを伝えることである。具体的に言えば、ス

ポーツや音楽、芸術のすばらしさを伝えることももちろんだが、発展途上国に生きる人々が、自給自足のために自分たちで作物などをつくるサポートをしていくことだと思う。自給自足のために働くことはいずれそこに住む人々の生きがいになり得る。生きがいを見つけることは自分で自分のことを好きになることだ。自分のことを愛せなければ、他人を、そして地球環境を愛することはできない。シンプルなことだが生きがいを見つけることこそが世界をよりよくする方法であると私は考える。

働きがいは生きがいになり得る。自分を愛すことにもつながる。だからこそ、私たちは働きがいを見つけてはならない。働きがいを見つけるキーワードは、働くために働く、すなわち「WORK to WORK」である。シンプルなことだが、このアイデアこそが将来の日本の社会のためになると強く信じている。